論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル：

Time Course of Metabolic Status in Pregnant Women: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル：

妊娠中母親の血液中の糖・脂質代謝異常について

ユニットセンター（UC）等名：　メディカルサポートセンター

サブユニットセンター（SUC）名：

発表雑誌名：　Journal of Diabetes Investigation

年：2020　月：2　巻：　頁：

筆頭著者名：　佐々木八十子

所属UC名：　メディカルサポートセンター

目的：

本研究では、エコチル調査参加者の妊娠中の血液中の糖・脂質代謝に関する属性について検討することとした。

方法：

エコチルの全登録症例に対し、母親単位・妊娠単位で解析を行った。基礎疾患に関して①健康、②1型糖尿病、③2型糖尿病、④妊娠糖尿病、⑤脂質異常、⑥その他の内分泌疾患の6つの集団に分けて、妊娠初期・妊娠中期で分析を行った。連続データについては、要約統計量（例数、平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値、パーセンタイル値を算出した。カテゴリデータに関しては、頻度集計を行った。

結果：

解析対象者82,972人のうち、1型糖尿病のみは43人、2型糖尿病のみは78人、妊娠糖尿病のみは2,315人、脂質異常のみは354人であった。ヘモグロビンA1c、総コレステロール、LDL-コレステロール、トリアシルグリセロールは全てのパーセンタイル値において、妊娠前のBMIが高いほど、増加していた。妊娠初期と妊娠中期のヘモグロビンA1c に大きな差はない一方で、脂質は増加していた。2型糖尿病のみ、または脂質異常症のみの妊婦は、妊娠初期のトリアシルグリセロールが高く、妊娠中期に減少していた。

考察：（研究の限界を含める）

参加者の約半数は、妊娠中の血糖コントロールの推奨目標6.5%未満のHbA1cレベルである一方、約5.0%は一般的に推奨される目標7.0%よりも高いHbA1cレベルであった。血糖コントロールが十分ではない妊婦が一定数いることが推察された。研究の限界として、非空腹時の血液サンプルは、妊娠中～後期の脂質やその他の代謝パラメーターの変化に影響を与える可能性がある。また、妊娠初期および妊娠20週以降の採取頻度が少なく、妊娠経過の分布に偏りがある。ただし、本研究は代謝状態の記述が目的であるため、今後は、交絡因子の調整により、代謝バイオマーカー、妊娠経過時間、内分泌疾患の有無等の関連性を検討する必要がある。

結論：

バイオマーカーの分布は、血液サンプルの採取時期と、基礎疾患の有無により影響を受けていた。今後の研究でバイオマーカーの測定を評価する際は、今回使用した指標を考慮すべきであると考える。